

平成31年3月玉川村議会定例会

議事日程(第2号)

平成31年3月11日(月曜日)午前10時開議

日程第1 一般質問

出席議員（12名）

1番	小 針 竹千代 君	2番	石 井 清 勝 君
3番	車 田 幹 夫 君	4番	渡 邊 一 雄 君
5番	塩 澤 重 男 君	6番	小 林 徳 清 君
7番	飯 島 三 郎 君	8番	田 子 武 幸 君
9番	西 川 良 英 君	10番	三 瓶 力 君
11番	大和田 宏 君	12番	須 藤 利 夫 君

欠席議員（なし）

職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

事務局 長	塩 田 敦	主 査	大 竹 絵美子
-------	-------	-----	---------

説明のため出席した者の職氏名

村 長	石 森 春 男 君	副 村 長	川 俣 基 君	
教 育 長	鈴 木 文 雄 君	総 務 課 長	丹 内 一 彦 君	
住 民 課 長	須 釜 信 一 君	税 務 課 長 兼 会 計 管 理 者	溝 井 浩 一 君	
健康福祉課長	矢 部 玄 幸 君	産 業 振 興 課 長 兼 農 業 委 員 会 長	須 田 潤 一 君	
地域整備課長	石 井 雅 夫 君	事 務 局 長	教 育 課 長	塩 澤 理 博 君
公 民 館 長	小 針 敬 子 君			

◎開議の宣告

○議長（須藤利夫君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は12人であります。

定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

(午前10時00分)

◎議事日程の報告

○議長（須藤利夫君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

◎一般質問

○議長（須藤利夫君） 日程第1、一般質問を行います。

通告順に質問を許します。

◇ 飯 島 三 郎 君

○議長（須藤利夫君） 7番、飯島三郎君の発言を許します。

7番、飯島三郎君。

[7番 飯島三郎君登壇]

○7番（飯島三郎君） ただいま議長より許可を得ましたので、学校統合についての制服についてを質問したいと思います。

1、新校名玉川中学校の制服について。

平成32年度4月から統合になる新しい制服が決定されたようですが、12月定例議会の中で一般質問がありましたが、再度私から質問させていただきます。

次の2点について伺います。

①2年生、3年生について、また全生徒について、制服は無償支給か、保護者負担か。

②制服のほかに着用するジャージなどはどうするのか。保護者負担にすべきではないと思うが。

以上、2点について伺います。よろしく申し上げます。

○議長（須藤利夫君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長、石森春男君。

〔村長 石森春男君登壇〕

○村長（石森春男君） 7番、飯島議員のご質問にお答えいたします。

まず初めに、新校名玉川中学校の制服についてのお尋ねであります。2020年4月に開校いたします新たな中学校につきましては、昨年12月に開催されました玉川村中学校統合委員会におきまして、学校名が「玉川中学校」に決定されました。

現在は、新しい中学校の開校に向け、玉川村学校等統合準備委員会において、学校運営部会、校名・校歌・校章・制服部会、通学・PTA部会、総務部会などの各専門部会を組織し、それぞれの検討事項について、協議、調整を進めており、今月6日には、制服、運動着、校章デザインについても統合委員会において決定されたところであります。

そこで、1点目の2年生、3年生について、また全生徒について制服は無償支給か、保護者負担かのご質問であります。新しい中学校の制服につきましては、昨年12月定例議会において、1番、小針議員の一般質問でお答えしましたように、2年生及び3年生につきましては、これまで着用している各学校の制服を卒業まで着用していただくこととしており、新たに村が購入し無償で支給するということは考えておりませんので、ご理解を賜りたいと思います。

また、2020年度の新しい1年生につきましても、これまでどおり新入生の制服は保護者のご負担という方針で進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

次に、2点目の制服のほかに着用するジャージなどはどうするのか、保護者負担にすべきでないと思うがとのご質問につきましては、ジャージにつきましては、平成27年4月に玉川第一小学校と川辺小学校が統合した際に、川辺地区から登校する児童に対し、村が無償支給した経緯がございます。これを参考とし、今回、保護者の負担軽減の観点から、新しい中学校の開校時の2年生及び3年生に対し、村が無償で支給するための予算を計上することと

いたしました。

さらに、そのほかとしましては、中学校の部活動の対外試合用のユニホームにつきましても、現在、泉中学校において活動している全ての部活動、具体的には野球部、ソフトボール部、バレーボール部、剣道部、卓球部の5種目について、村で新たに購入する予算を計上しており、生徒には新生玉川中学校の歴史を築くべく一体となって頑張っていたいただきたいと思いますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上です。

○議長（須藤利夫君） 飯島三郎君。

○7番（飯島三郎君） ①番目の答弁については無償にはできないというお考えのようですが、この制服に対しては保護者の意見などを十分に聞いたかどうかということで、伺います。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいま、保護者等の意見等についてのお問い合わせでございますけれども、保護者等にこの制服部会でこの制服にしますよというそういうお話をさせていただいた中で、保護者からそういう強い意見というのは聞いていないというふうにお伺いをしているところでございます。

○議長（須藤利夫君） 飯島三郎君。

○7番（飯島三郎君） そうしますと、運動着のほうは支給するということになったようですが、学校での部活というか、合唱コンクール、それから修学旅行、これが制服がばらばらになるわけですが、担任の先生はその辺で見分け方が大変ではないかというふうに思われますが、その辺の考えはどうかでしょうか、伺います。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいまの件についてでございますけれども、部会等の事務局を担当しています教育委員会のほうから答弁をさせていただきます。

○議長（須藤利夫君） 教育長、鈴木文雄君。

○教育長（鈴木文雄君） ただいまの修学旅行、それから合唱コンクール等においてばらばらでは担任の先生等の把握が難しいのではないかというご質問でございますが、近年統合されている学校等の情報を得ましたところ、ほとんどの学校では、制服はそれぞれ2年生、3年生におきましては従来の制服を着用していたということでございます。

それから、合唱コンクール等についての制服でございますが、それぞれの統合された旧来の制服を着て合唱あるいは音楽活動に取り組んだということですが、特に違和感もなく、子

供たちは自分たちが在籍していた旧来の中学校の制服に誇りを持って臨んでいるというのが、一般的だということで伺っております。

また、修学旅行等につきましても、名札等をつけておりますので、担任等あるいは引率教諭の引率する場合の把握につきましては特に問題はないかと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 飯島三郎君。

○7番（飯島三郎君） そういうことにはなるんですけども、実際としてどう思うか、後で後悔したなんていうことにはしたくないので、もしできれば予算をやりくりして、全生徒の制服を新調したほうがよいのではないかというふうに考えますが、再度検討する余地はありますか。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいまの飯島議員のご質問の件でございますけれども、制服につきましては結構値段が張りますので、すぐまた1年で新しいものにというのも、親の負担のそういう事情を考え、経済的な事情を考えますと、やはりその制服でもって卒業までいて、新しく入った生徒については当然その制服になりますけれども、そんなことでそういう部分を含めて考えているところでございますので、今言われました件については、なお検討はさせていただきたいと思っておりますけれども、現地点においてはなかなか難しいのかなというふうに考えています。

○議長（須藤利夫君） 飯島三郎君。

○7番（飯島三郎君） 大変なのはよくわかっておるわけですが、新しく入学する生徒は毎年負担がかかるわけですが。そのようなことで、半額負担というのとか、何か補助的なものは考えられないものでしょうか。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいまの半額支援とか何か補助的なもののお話ございましたけれども、先ほど言いましたように、現時点ではそのように考えております。保護者も何万という大変な負担をしながら制服等準備して、新しい中学生、新1年生ということでやっておりますので、それらについては今までどおりというふうに、村では基本的には考えているところであります。

○議長（須藤利夫君） 飯島三郎君。

○7番（飯島三郎君） 財政に余裕ないということはよくわかりますが、なお、この件につい

ては時間もまだありますので、よく検討して進めていただきたいというふうに思っています。

私の一般質問はこれで終わらせていただきます。

○議長（須藤利夫君） これをもって、7番、飯島三郎君の一般質問を終わります。

◇ 小 針 竹 千 代 君

○議長（須藤利夫君） 次に、1番、小針竹千代君の発言を許します。

1番、小針竹千代君。

〔1番 小針竹千代君登壇〕

○1番（小針竹千代君） おはようございます。

ただいま議長より許可を得ましたので、さきに通告をしておきました2点について質問をさせていただきます。

まず、1点目でございますが、消火栓の点検についてであります。

平成31年1月の降水量は観測を開始して以来3番目に少なく、消防団も火災への注意を呼びかけていましたが、去る2月2日に中地区において小屋の火災が発生してしまいました。幸い近くの防火水槽及び池からの水の供給が敏速に行われたため、住宅への延焼はなく消火されましたが、初期消火の基本である消火栓の消火がホースと接続ができず、消火栓が使用できませんでした。

さらに、消火栓の水をとめることができず、一晩中水が出たままになってしまいました。消火栓が使用できれば、もっと早く消火できたと思われま。

このことから、次の3点について伺います。

まず、①として、消火栓とホースの接続ができなかった原因は。

②として、消火栓の水がとまらなかった原因は。

③として、消火栓の耐用年数は。

次に、2点目でございますが、ため池の点検についてでございます。

東日本大震災からきょうでちょうど丸8年になりますが、震災後、ため池の点検を実施したと思われまますが、最近また地震が多くなったと感じま。昨年、中地区の中池より下池に水漏れしている箇所がありました。見回ってもどのように漏れるのかわかりません。各行政区においても、このようなことがないか再度点検すべきと考えまますが、考えを伺いま。

以上、2点であります。よろしくお願ひいたします。

○議長（須藤利夫君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長、石森春男君。

〔村長 石森春男君登壇〕

○村長（石森春男君） 1番、小針議員のご質問にお答えいたします。

まず初めに、消火栓の点検についてのお尋ねであります。重要な消防水利である消火栓については、地元の消防分団において春の検閲や秋の訓練の際などに点検をしており、ふぐあいなどがあれば村に報告をいただき、適切に対応することとしております。

2月2日に発生した中地区の建物火災に際し、消火栓からの放水ができず消火活動に支障が生じたことにつきましては、まことに遺憾であると考えております。

まず、1点目の消火栓とホースの接続ができなかった原因はとのご質問につきましては、消火栓の放水口を覆うキャップを外した際に、消防ホースを受けとめる金具がキャップと一緒に外れてしまい、ホースのカップリングがかからず装着できなかったと思われまふ。その金具は外したキャップの内側に吸いついておりましたが、夜間の消火活動中は発見できなかったと報告を受けております。

次に、2点目の消火栓の水がとまらなかつた原因はとのご質問につきましては、消火栓の開閉栓が何らかの原因で回らなくなり、開閉栓を完全に締めることができなかつたことから、管槍を装着して水をとめるという応急措置をとつたものであります。

次に、3点目の消火栓の耐用年数はとのご質問につきましては、消火栓本体の耐用年数は一律に設けられてはおらず、気候的要因やメンテナンスの状況により交換時期は異なるものと認識をしております。

今後は、消火栓の点検のあり方について、単に水を出すだけではなく、実際にホースや管槍を装着するなど、より実践に近い点検を各分団にお願ひし、有事に備えてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思ひます。

次に、ため池の点検についてのお尋ねであります。中地区の中池より下池に水漏れしている箇所があり、漏水の原因が不明であり、各行政区においてもこのようなことがないか再度点検すべきとご質問につきましては、昨年の9月定例会におきまして、2番、石井議員に答弁しましたとおり、用水利用については所在する各行政区において管理されており、施設については地元と連携して村が管理しております。また、施設については福島県中農林

事務所と合同で点検しており、今年度も西日本豪雨を受けて、ため池緊急一斉点検を実施したところであります。

今回ご質問の水漏れしている箇所につきましては、管理している中区長に確認したところ、昨年秋に、中池洪水吐から下池に流れる水路下流の空石積みの側壁部分から少量の水が出ているのを発見したとのことでありました。条件的には、中池が満水で、なおかつ下池に水がないときに確認できるものであります。現在は、下池が湛水されており、確認できない状態です。

今後、中区長と連絡調整を図りながら、水位の管理状況等を考慮し、確認が可能になれば、速やかに現地調査を実施したいと考えております。

また、その他のため池を管理している各行政区につきましても、引き続き連絡を密にしながら、点検、確認等を実施してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上でございます。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） それでは、再質問をさせていただきます。

1番目の①の消火栓とホースが連結できなかった原因はというふうな点ですが、消防ホースを受けとめる金具がキャップと一緒に外れたとのことですが、そのようなことがあるのかいささか疑問ではありますが、地元の分団が一番早く入ったものと思い、地元の中分団に確認をしました。しかし、そこには入っていないくて広域消防が入ったということでございます。広域消防のほうに伺いまして、そこに入ったんですかということを確認しましたけれども、そこでも広域では入っていないとふうなことでございました。

それで、この消火栓に入った消防分団の責任を問うわけではありませんけれども、結局、実際にはどういうことだったのかというような、その詳細を確認したのかどうか、まず伺います。

○議長（須藤利夫君） 住民課長、須釜信一君。

○住民課長（須釜信一君） 1番、小針議員のただいまの再質問でございますけれども、その当時の現場の状況につきましては、現場に臨場した村職員よりその状況について報告を受けております。地元といいますか、その消火栓に入った分団等に直接確認はしておりません。

以上です。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） これは話を聞いているといろんな説があって、その広域のホースはあれよりもちょっと細くて金具をつけて合わせるのだという話があったり、火事場のばか力ではありませんけれども、無理やり突っ込んでこうやってやったというふうな話とかがあるんですよね。じゃ実際はどうしてつながらなかったのか。

一般的には、私も経験がありますけれども、挿してぐっと引っ張って、そして確認して水を出すんですけれども、次の話とも連動するのですけれども、結局ホースが繋がらないで水を出すということ自体も異常な話なんですよ。だから、次の2番目のほうと連動しますけれども、その原因が何でとまらなかったのかわからないということで、今、既に、3日前くらいに新しい消火栓と交換されました。そういう原因がわからないで、副弁というのがあるらしいんですけれども、こう消火栓があって、脇にこうあって、副弁でその水をとめるということなんですけれども、結局その副弁が壊れちゃったか何かしたんだと思いますけれども、そういう原因を追究しないで新しいものと交換したって、そういうことでいいのかどうか伺います。

○議長（須藤利夫君） 住民課長、須釜信一君。

○住民課長（須釜信一君） ただいまの再質問でございますけれども、原因の究明、非常に大事だと思っておりますので、これにつきましては原因の究明とあわせて、点検などのあり方などについてもあわせまして、その対策について検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） 1番、2番もそうなんですけれども、2番の件で、中地区でそういうことがあったということで、ほかの地区でもその消火栓を点検したというところがあるらしいのです。そうしたら、そこでも何かとまらなくなったとか、そういうことで修理したという話を聞いていますけれども、これは実際にあったんでしょうか、伺います。

○議長（須藤利夫君） 住民課長、須釜信一君。

○住民課長（須釜信一君） ただいまの再質問でございますけれども、実際に岩法寺地区でございました。やはり応急的な措置をしまして、現在その修繕の工事を行っているところでございます。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） 3番の件と今度は連動してくるのですけれども、消火栓の耐用年数はということでございますが、結局、寿命とかそういったことがあるんだと思いますけれど

も、この中地区の消火栓の設置した時期は何年くらいで、何年たっているのか、この時期に何基くらい設置したのか、今ここでわからなければ後の報告でもよろしいですけども、伺います。

○議長（須藤利夫君） 住民課長、須釜信一君。

○住民課長（須釜信一君） ただいまの再質問ですけども、消火栓の設置した年月等につきましては、消火栓台帳というのがあるんですけども、それには設置の場所、あと接続されている管の口径等が記載されておりますが、設置年月等については記載されておらず、詳細な回答ができない状況でございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） 水道管の寿命は40年というふうなことでよく言われていますけれども、耐用年数はその場所とかメンテナンスというようなことで変わるという答弁をいただきましたけれども、結局、実際にこういったことが発生してきているので、新設するというのも大事なことですけれども、先ほどの答弁の中に、今度はその消火栓の点検をよりやって、やっぱり古いものから随時予算を組んでちょっとずつ交換するという考えはあるかどうか伺います。

○議長（須藤利夫君） 住民課長、須釜信一君。

○住民課長（須釜信一君） ただいまの再質問ですけども、議員のおっしゃられるとおり、非常に大事なことだと考えておりますので、今後、計画的に予算を確保しながら対応してまいりますと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） 今回の火災で、ちょうど火災の場所が水郡線の沿線だったわけです。そして水郡線のちょうど上りの列車が来て、43分停車をさせていただきました。これは、ちょうど消火栓がその線路の東側にあるんですね。そして、ホースを引いてということとかその火事があったといういろんな条件が重なりまして、こういったことになったんですけども、当然消防のことを考えれば、消火栓の設置を線路の西側にも必要だというふうに思いました。どうでしょうか、こういう考えがあるかどうか伺います。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいま1番議員のお尋ねの件でございますけれども、言われましたように、線路の西側にはないというような部分がありますので、今後、集排等の事業の際に何とかその辺を解消できないかということで、ぜひ検討していきたい、そのように考えて

おります。

○議長（須藤利夫君） 小針竹千代君。

○1番（小針竹千代君） 私も消防分団を経験しておりましたが、先ほど言いましたけれども、今までは、私らもそうですけれども、消火栓の水が出るかなというふうなことの確認は検査のときにやっているんですね。そして、ホースをつないでやるということが私らも実際にはやっておりませんでした、今はどうだかわかりませんが、やっぱりこのようなことがあって、各分団にこれをいい教訓というか、事例を教訓として、これからの消防団は予防消防に努めてほしいというふうに考えておりますので、消防団の通知のほどをよろしくお願ひしたいと思ひます。

1番の件の質問は以上でございますが、2番目の件は、ため池の件について答弁をいただいたとおりでありまして、調査、点検をお願いしますというふうなことでございます。

再質問はございませんが、最後に、私が一般質問通告書を提出した後に、速やかに役場のほうから区長に連絡があり、そして、現地の調査、写真とりをやってもらったということに對しまして敬意をあらわしたいと思ひます。

ネズミやモグラの穴でも時間がたつとどんどん大きくなって、その池の堤防が破壊されれば、当然下に住宅がありますので、大変な災害を引き起こします。村民の安心と安全を守るためにそういった点検等をよろしくお願ひをいたしまして、私の一般質問を終わりにさせていただきます。

○議長（須藤利夫君） これをもって、1番、小針竹千代君の一般質問を終わります。

◇ 塩 澤 重 男 君

○議長（須藤利夫君） 次に、5番、塩澤重男君の発言を許します。

5番、塩澤重男君。

〔5番 塩澤重男君登壇〕

○5番（塩澤重男君） ただいま議長より発言の許可がありましたので、さきに通告しておきました件について質問させていただきます。

質問は、人口減少対策であります。

全国的に人口減少が加速する中、玉川村も例外ではない。少子化による若者の減少は地域

の活力を奪い、地域が衰退し、村の存亡に係る重大事と危機感を抱いております。玉川村まち・ひと・しごと創生総合戦略で諸施策を実施中。残念ながら人口増の成果としての数字があらわれてこない。

①平成31年度玉川村の人口7,000人を目標値としたが、現在6,600人を切る状況。目標値は実現可能か。

②移住、定住対策の効果は出ていると思う。現在までの実績と目標値は達成可能か。

③子育て支援事業は成果が出ていると思う。子育て世代からの要望は何か。

④未婚者対策は村の人口維持に大変重要と思う。結婚しない選択肢か、未婚者が多いと感じます。新たな未婚者対策は何か。20代から50代の男女別、年代別の未婚者数は。

⑤人口減少が特に多い地区の上位3区は。原因と対策は。

⑥5年後の人口推移はどうなるか。年少人口の推移、生産年齢人口の推移、現在と5年後の高齢化率。

⑦若者の定住には雇用の場の確保が大事と思う。企業誘致の成果が見えないが、取り組みは。

⑧中学校統合の村民の関心が高い。少子化により小学校も今から検討を進める考えは。今後、複式学級になるのは何年後か。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（須藤利夫君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長、石森春男君。

〔村長 石森春男君登壇〕

○村長（石森春男君） 5番、塩澤議員のご質問にお答えいたします。

人口減少対策についてのお尋ねであります。まず、1点目の平成31年度玉川村の人口は7,000人を目標値としたが、現在6,600人を切る状況。目標値は実行可能かとのご質問につきましては、本村では第6次玉川振興計画の前期計画におきまして、平成32年までの目標人口を7,000人とし、その目標に向かってさまざまな施策の展開を図ってまいりました。これにより、平成27年度、28年度は転入者が転出者を上回る社会動態人口の増加という成果がありました。

しかし、本村に限らず、現在の日本全体において、死亡者の増加と出生数の減少という自然動態人口の減少が加速度的に進行しており、このことは行政施策のみではとめることので

きない社会現象であります。

このような現状を考えますと、現時点において7,000人という目標値の実現は非常に厳しい状況にあると言わざるを得ませんが、引き続き、定住対策や子育て対策、健康づくり等を積極的に推進し、人口減少に歯どめをかけたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

次に、2点目の移住、定住対策の効果は出ていると思う。現在までの実績と目標値は達成可能かとのご質問であります。玉川村まち・ひと・しごと創生総合戦略における目標値とこれまでの実績につきましては、定住促進補助事業の利用世帯の目標値が85世帯であるのに対し、今月、2月15日現在で76世帯の利用があり89.4%の達成率となっております。

また、この制度を利用した村外からの移住者については、目標値の100人に対し、80人が転入しており、達成率は80%となっております。

さらに、この制度を利用した村内の定住者については、目標値の50人を大幅に超える231人となっており、村民の定住につきましては予想以上の成果を得ております。

今後につきましては、いずみ保育所やすがま幼稚園の跡地を利用した宅地の建設予定戸数を考えますと、目標値の達成は可能と考えております。

また、定住促進補助事業につきましては、平成31年度が最終年度となっておりますが、これまでの定住、移住に対する事業効果を考慮し、最終年度以降の事業のあり方について検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

次に、3点目の子育て支援事業は成果が出ていると思う。子育て世代からの要望は何かのご質問であります。

玉川村が実施している子育て支援事業につきましては、多くの方から成果が出ているとのお話をいただいております。うれしく感じているところであります。

さて、子育て世代からの要望でございますが、平成27年度から31年度の5年間を計画年次としております「元気なたまかわ子育て支援プラン」の改訂に当たり、次期計画の基礎資料とするため、今年度にニーズ調査を実施いたしました。調査は、村内の就学前児童及び小学生全員677人、414世帯を対象として行い、回答は327世帯、率にして79%でありました。

この調査の中で自由意見の記入欄を設けたところ、さまざまなご意見をいただきました。一番多い意見は遊び場や公園がほしいというものであり、そのほかには、任意予防接種費用の助成、保育や教育に対する支援金の充実、学力向上のための学習支援など、費用の助成を求める意見が多く見られました。

村といたしましては、現在、子育て支援としてさまざまな独自の事業を行っております。1つ目は、第1子に10万円、第2子に20万円、第3子以降には50万円を支給する誕生祝い金であり、2つ目は、3歳未満のお子さんに1カ月当たり5,000円を支給する子育て支援給付金であります。そのほか、こども園の保育料の軽減、奨学資金制度などを展開しており、これらの施策が、先ほども塩澤議員からございました評価につながったものと認識をしており、今後も公的支援や村独自の施策を行いながら子育て支援を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

次に、4点目の未婚者対策は村の人口維持に大変重要と思う。結婚しない選択肢か、未婚者が多いと感じる。新たな未婚者対策は何か。20代から50代の男女別、年齢別未婚者数はとのご質問でございますが、平成30年度は未婚者対策として、村主催の未婚男女交流会を1回、石川郡5町村による石川コンを2回開催したほか、村内企業に対し「企業向けふくしま結婚サポーター登録」について説明を行うなどの取り組みを進めてまいりました。

そのほか、村が任命している14名の結婚相談員につきましては、福島県が実施したアンケート結果や婚活の現状と課題等の情報を提供するとともに、インターネット登録会員制度である「はび福なび」のPRのほか、村が行う未婚男女交流会や石川コンへの参加者募集などの広報活動にもご協力いただきました。

新年度につきましては、管内5町村で行う石川コンの内容を見直しながら引き続き実施するほか、4月には新たな玉川村結婚相談員を任命いたしますので、今後、玉川村結婚相談所会議なども通じ、新たな事業を検討してまいりたいと考えております。

また、男女別、年齢別未婚者数についてですが、離婚や死別、同居していないなど生活実態に応じた区別が難しいため、平成31年1月末現在の村内の単身者数でお答えをいたします。まず、年齢別では20代が461人、30代が334人、40代が285人、50代が196人となっており、男女別では男性773人、女性503人、村全体では合計1,276人となっております。

次に、5点目の人口減少が特に多い地区の上位3区、原因と対策はとご質問でございますが、人口減少につきましては、昨年6月から7月にかけて開催いたしました村民懇談会で資料を配付し説明をしておりますが、その資料に基づき平成元年と平成30年の対比で申し上げますと、減少数が最も多かったのは南須釜、次に小高、その次が北須釜となっております。

その原因についてはさまざまな要素があり端的にお答えすることはできませんが、住宅団地やアパート等のある川辺・蒜生・中地区では人口が増加していることからすれば、住環境の整備状況が一因ではないかと推測されます。

このため、宅地や民間アパート建設の適地、さらには空き家等の情報提供を行うとともに、新規創業者への支援や企業誘致等にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、6点目の5年後の人口推移はどうなるか。年少人口の推移は、生産年齢人口の推移は、現在と5年後の高齢化率はとのご質問であります。

平成28年3月に作成いたしました「玉川村人口ビジョン」における人口の将来展望において、2020年と2025年の数値が記載されております。まず、年少人口につきましては958人から948人となり10人の減、次に、生産年齢人口につきましては3,994人から3,892人となり102人の減、老年人口につきましては2,094人から2,204人となり110人の増、合計では7,045人から7,044人となり1名の減と予想されております。

また、老年人口比率につきましては29.7%から31.3%となり、1.6%の上昇と予想されております。

次に、7点目の若者の定住には雇用の場の確保が重要と思う。企業誘致の成果が見えないが、取り組みはとのご質問であります。ご指摘のとおり、定住を図るためには雇用の場を確保することが極めて重要であると認識しており、福島県が主催している企業立地セミナーでのPRを初め、利用可能な土地の情報提供に努めておりますが、新たな企業の誘致には至っていない状況であります。

しかしながら、従業員の増員等を条件とする、ふくしま産業復興企業立地補助金や復興投資促進特区等を活用した工場の移転や規模拡大などにより一定の雇用確保が図られておりますので、今後も村内企業がこれらの制度を有効に活用できるよう支援してまいります。

また、村内企業との懇談会や企業訪問の際には、従業員を募集しても村内からの応募がないとの声もありますので、企業における従業員の確保につきましても、村としてどのような支援ができるのか検討してまいりたいと考えております。

さらに、新たな企業の誘致につきましては、商業施設も含めて引き続き努力してまいります。さまざまな情報や交流をお持ちの議員各位の皆様にもご協力、ご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

次に、8点目の中学校統合が村民の関心が高い。少子化により小学校も今から検討を進める考えは。今後、複式学級になるのは何年後かとのご質問につきましては、教育長から答弁をさせていただきます。

私からは以上であります。

○議長（須藤利夫君） 教育長、鈴木文雄君。

○教育長（鈴木文雄君） 塩澤議員のご質問にお答えいたします。

中学校統合が村民の関心が高い。少子化により小学校も今から検討を進める考えは。今後、複式学級になるのは何年後かとお尋ねであります。小学校の統合の検討につきましては、これまでも議会等におきまして、中学校の統合を実施し、その後に小学校の統合を検討してまいりたいとお話しさせていただいているところであります。

小学校の統合の検討時期につきましては、検討の契機となる指標の一つとして複式学級の編成の必要性が考えられます。小学校に入学する児童数について現在の出生数から試算しますと、平成29年度に生まれた子供が入学する2024年4月の小学校1年生は、玉川第一小学校で29名、須釜小学校で13名と見込んでおり、複式学級の編成はまだ必要ない状況であります。

したがって、現在の出生数からしますと、6年後の2024年度の小学校の学級編成まで、本村における各小学校は複式学級の必要がないことから、現時点ではまだ小学校統合の検討を進める考えはございませんので、ご理解を賜りたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） 何点かですけれども、再質問させていただきます。

①番の7,000人の人口目標値、これは死亡者の増加、それから生まれる子供の数が少ないということで、それからそれは社会現象であるというような答弁でございました。実現は非常に厳しいというような答弁でございましたけれども、今の減少率から考えますと、村の人口は2020年には約6,500人、2025年には6,000人くらいに減るんじゃないかというような見通しは持っていますけれども、そのように減少するおそれはないのでしょうか、伺います。

○議長（須藤利夫君） 総務課長、丹内一彦君。

○総務課長（丹内一彦君） ただいま、塩澤議員のご質問でございますが、将来に向かいますと目標の人口が減っていくということで問題はないのかということでございますが、玉川村の第6次振興計画の前期計画におきまして、現在目標人口7,000人というこれが、ただいま村長が申し上げましたとおり難しい状況にあるということでございますが、同じ振興計画の後期計画の実施年度の目標人口につきましても7,000人ということで設定されております。

これにつきましては、平成にしますと37年ということですので、あと6年ありますので、こちらに向けまして子育て支援等の住宅の建設、それから各支援の拡大等を含めまして大きな目標を持ちまして、進めて人口7,000人の目標に向かって事業を展開していきたいということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） 目標は高く持ったほうがいいのはわかっていますけれども、ただ、現実とは若干異なるのかなというふうに考えています。このまま人口減少が進んだ場合、行政サービス、村の機能維持ですか、それから財政面でどのような問題が出てくるのが予想されますか。

○議長（須藤利夫君） 総務課長、丹内一彦君。

○総務課長（丹内一彦君） ただいまのご質問でございますが、人口が減れば確かに歳入も減りまして、事業等の実施にも障害が出てくるのかなというふうに予想されております。地方交付税などにおきましても、人口の減があれば交付税の減という算定になりますので、なるべく人口の減にならないような事業を進めてまいりまして、選ばれる村づくりということで、そちらに重点を置きまして事業を進めてまいりたいと考えております。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） そうですね、若い人で玉川村に永住したいといえますか、ここに家をつくりたいというような魅力ある村づくりですね、これは何が必要か。また、村で何が不足しているのか、若い人が玉川に住みたいというような村づくりで、それは何が必要か、あと何が不足しているのか、伺います。

○議長（須藤利夫君） 総務課長、丹内一彦君。

○総務課長（丹内一彦君） ただいま、若い人たちに住んでもらうためには何が必要かということでございますが、玉川村におけます転入、転出先ということで平成26年度のデータがございますが、玉川村にどこから転入してきたかということでは、1位が郡山市、2位が石川町となっております。玉川村からどこに転出したかということでございますが、1位が須賀川市、2位が郡山市、3位が鏡石町となっております。

これらのことを考えますと、やはり働く場、住宅の宅地等が提供される場所、それから教育等を行うに当たりまして便利なおところということが大きな理由なのかなというふうに考えておりますので、引き続き、先ほど申しましたが子育て支援の事業、それから企業誘致等に努力をしまして、ほかに転出しない、ほかから玉川村に転入していただくというような事業を進めたいと考えております。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） それでは、②番のほうに移らせていただきたいと思います。

定住対策、効果は出ていると思うと私も言いましたけれども、確かに新しい住宅が目立って新築されております。ただ、いずみ保育所の跡地、それからすがま幼稚園の跡地ですか、

これらを見ますと3軒ずつ今、新築されている状況ですので、こういう新築の住宅が建っていくと大変心強く思います。これからまた農業集落排水事業なりそういうもので環境整備が玉川村は図られていきますので、これらも村の強みになるのかなというふうに感じております。

それで、若者向けの住宅、それから新たな分譲地の取り組みやニュータウンの造成ですか、そういうものについての考えはあるのか伺いたと思いますけれども。

○議長（須藤利夫君） 総務課長、丹内一彦君。

○総務課長（丹内一彦君） ただいまのご質問でございますが、売るとして当面考えておりますのは子育て支援の住宅でございます、例えば両親と小さいお子さん向けの一般のアパートよりも多少広い部屋を持つアパート、こちらについて民間の資金を活用した住宅の建設等を考えておまして、まだ地元には説明しておりませんが、地元の賛同が得られれば、こちらの事業を進めてまいりたいと。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） とにかく若者住宅向けですね、それをつくって定住させるような方向でやってもらえばというふうに思っております。

次に、③番のほうに移らせていただきます。

子育て支援事業の関係ですけれども、要望としては遊び場や公園がほしいというような声があるということですが、ぜひこういうのも進めていただきたいと思っております。

今後、村で取り組むべき事業ですけれども、出生数、こういうものを高める施策、これについて伺います。子供をふやす施策ですね。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） 大変難しいご質問でありますけれども、まず、先ほど言いましたように単身者の数が相当おりますので、そういう部分の解消も大事なのかなと。あと、先ほど総務課長から答弁をさせていただきましたけれども、子育て世代向け用の住宅等の整備について積極的に村としても支援するなり、取り組んでいきたいなというふうに考えております。

それと、やっぱり若い人だけではなくて、その地域に住んでいる人たちにも呼びかけて、結婚して、子供ができて、村が繁栄するんだというようなそういうサイクル的な、そういう部分の浸透というかそういうのも大事なのかなというふうに考えております。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） 遊び場や公園、これも進めていただきたいと思います。これは要望ですけれども。

次に、④番のほうで未婚者対策ですけれども、結婚をしないという選択肢で結婚しない人が大分多くなっています、非婚者ですか。先ほどの答弁では20代から50代まで、男女で1,276人というような数字がありましたけれども、この人が半分でも結婚してもらえれば、子供が移住できるのかなと思いますけれども、このままでは将来、子供を持たないひとり暮らしの高齢者ですか、これが増加するばかりかなというふうに考えます。

これも先ほど村長が言いましたように社会現象だということですが、社会の流れということのままにしておいたのでは、村の人口は絶対ふえないというようなことでありますけれども、この少子化の最大の原因というのはやっぱり未婚化かなというふうに考えるわけです、結婚しないから子供が増えない。外国では結婚しなくても子供がいっぱいできているようですけれども、日本の場合、やっぱり結婚しないと子供ができないというのが普通な考えですけれども、村の将来のため、効果のある結婚対策、これについて伺います。未婚者対策ですね。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） 先ほど答弁をさせていただきました石川コンとあって、石川地方で広域的にやりましょうということで、年2回ということでやっています。

そのほか、玉川村は独自に、何年か忘れましたが、十数年前からそういう対策事業をやっているところがございますけれども、なかなか、マッチングまではいくのですけれども、将来的に、今言われましたように、こちらで意図する結婚して子供ができるというそういう状況には至っていないのが現状、実情でありますけれども、私も何回かその現場に立ち会いをさせていただきました。本当にこちらでも、何でもっと積極的にというそういう部分あるんですけれども。これも婚活事業というのはいろんな場所でやっていますけれども、やっぱり手を変え品を変えではないんですけれども、来年度、31年度も石川コンの見直し作業をやりながら、玉川村もつい3月に婚活、単独の婚活をやらせていただきましたけれども、これもちょっと手法を変えながら実施しておりますけれども、成果になってあらわれるように職員も一丸となり、あるいはその地域の皆さんも一丸となって努力するということが必要なのかなと思いますので、PR活動、あるいはそういう地域の人にもお願いをしながら、新しい相談員も今度4月以降にできますので、そちらのほうで話をさせていただいて対応していきたい、そのように考えています。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、⑤番は抜きまして、⑥番のほうに移らせていただきます。

人口推移ですね、全体で7,045人から7,044人という、1人減少するだけというようなことでしたけれども、これは平成28年度に作成されました願望を含めた期待値かなというふう感じており、現実的ではない数字かなというふう考えております。これは7,044人ですから、ちょっと達成は非常に難しいというふう感じております。

当然、少子化というのは避けられない問題かなと思ひますので、少子化や高齢化社会に即応した、対応した村づくり、これはどのように考えているのか伺ひます。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） これも非常に難しいご質問でございますけれども、全国的にあるいは福島県内的にも、福島県の59市町村も全てその人口減少というのは大きな課題であり、また問題であるというふう考えておりますけれども、村としてはやっぱり新しい取り組みをしながらという部分は考えておりますけれども、一つは企業の誘致も大きなウエートを占めるのかなと思ひます。

そのほか、玉川村として現在、住宅用地はないですかというようなそういう問い合わせはありますので、そういう問い合わせに対して応えることのできるような、そういう施策の展開もしっかりと考えていかなければならないのかなというふう思ひています。そういった意味で、村としてそういうその住宅用地の確保等についてどのようにしたらよいかというような部分では今後さらに詰めながら検討していききたいと思ひています。

特に、そして交流人口をふやしながら、玉川村に興味を持っていただいて、そして、しいては定住にもっていかうという、そういうのもやっぱり一つの大きなプロセスなのかなと思ひますので、そういった意味で、大変厳しいご質問でありますけれども、そういうことで頑張っていきたいと考えております。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） 全国的に人口減少は進んでいきますので、これはとめようがないのかなとは一応考えております。やはり減少したなりの村づくり、そういうことで、財政的にも多分厳しい時代が来るのかなというふう考えておりますので、即応した村づくりを進めていただきたいと思ひます。

次に、⑦番ですけれども、若者の定住には雇用の場ですね、先ほどなかなか企業誘致が思

うようにいかないというふうな答弁でございましたけれども、村内からの応募がないというふうな答弁もありましたけれども、若い人、進学なり就職で都会のほうに出ていったきり戻ってこないんですね。大学とか就職で東京なり神奈川、千葉、埼玉のほうですか、あっちのほうに皆行って、実際戻ってくればいいのですけれども戻ってこないんですね。だからこれも人口がふえない一因かなというふうに考えておりますけれども、村内に優秀な企業がありますよね、TBKとかそういうのが、大変優秀な企業だと思っておりますけれども、そういう会社への働きかけというのはどういうふうにされているのでしょうか、伺います。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいまの塩澤議員の質問、お尋ねの件でございますけれども、実は毎年1回、年の初めに企業訪問を実施しております。そのほか、企業懇談会ということで実施をさせていただいております。企業訪問の際に企業主から言われますことは、仮にA社とすれば、A社は本当は地元から採用したいのですけれども、地元からの応募がないとそういう声も聞かれます。毎年、現在企業の景気もそんなに悪くないので、新採用、今はしているんですけれども、その中に玉川村の従業員が入っていないという話を言われまして、村から採りたいんだというお話はいただいております。ぜひ、こちらも村から採ってくださいよという話はさせていただいておりますけれども、先ほど答弁させていただいたのは、そのような事例が実際に企業訪問したときにあります。

あるいは、企業懇談会、これも毎年11月、12月に実施しているのですけれども、そのときも各企業の企業主さんあるいはその社長さん、あるいは人事担当のそういう部長さんなりが出てきますけれども、今言われましたようなお話はされております。決して、企業としては現在の景気はそんなに悪くないので、人は採りたいというようなそういう話をされております。

あわせて、企業立地補助金がありまして、復興の補助金とか、それは村内の企業も数社受けておりまして、それでもって新たに採用をしている部分もございますけれども、そこに玉川村からというそういう声はなかなか聞いていないというのが実情でありますけれども、さらに玉川村としては企業用地がございませぬので、既存企業と足並みをそろえながら、やっぱり従業員の確保なり、玉川村に来て働いていただく人の確保に向けて一緒になって進めていきたいと思っております。あわせて、福島県の企業立地セミナーにも積極的に参加をしてPRしていきたいと考えております。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） やはり若い人を見ますと、村外に働きに行っている人が結構多いようです。だから、郡山とか白河とかそういうところで、結構通勤時間がかかりながら働きに行っているようですので、村に優良企業がありますので、そういうところに働ければ、相当村の活性化というんですか、元気が出るような感じですので、そこら辺もよろしくお願ひしたいと思います。

最後になりますけれども、⑧番目の学校統合の関心です。先ほどは小学校、2024年に須釜小学校に13名入学ですか、玉川一小に29名が入学するということですので、複式学級にはならないので検討する考えはないということで、これはわかりました。

それで、2019年、今年、須釜小学校ですけど、今年度から2023年まで各年度ごとに須釜小学校の場合、何名くらいずつの入学予定者数があるのでしょいか、伺います。

○議長（須藤利夫君） 教育課長、塩澤理博君。

○教育課長（塩澤理博君） 5番、塩澤議員の再質問でありますけれども、須釜小学校についての2019年度からの1年生の入学予定の数のご質問でありますけれども、2019年度については17名、20年度は15名、21年度が13名、22年度が15名、23年度が13名であります。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） わかりました。

とりあえず、複式学級にならないので、なる時期に検討したいということですね。わかりました。いいです。

これは認定こども園のゼロ歳児保育やいずみ放課後児童クラブ、須釜もありますけれども、児童クラブ、こういうものが整備されておりますと、共働き世帯が安心して仕事に行けるといふうなことで、これは大変いい施策だなというふうに感じております。将来、検討時期が来てからでしようけれども、小中一貫校を新設し、教育環境の整備、そういうのも図っていくことがやはり玉川村の魅力になるのかなというふうに考えております。そういうことが若者の定住にもつながるとも思いますので、小中一貫校新設について、村長はどのように考えているのか伺いたしたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） 中学校の統合が1年後、2020年に迫っているところがございますけれども、小中一貫校の話題なり、そういう議論というのはまだ具体的に村ではなっておりませんけれども、流れからするとそういう検討もそろそろしなければならないのかなというふう

に思っているところでございます。

しかしながら、現時点においてまだ小中一貫校というところまではいかなくて、認定こども園ができて中学校の統合がなされて、現に中学校が統合になって、その後、2つの小学校がどういう教育環境、教育施設の中で、今後の村の教育のあり方あるいはその教育振興のためにどういった部分が適正なのか、十分皆さんと検討していきたいと考えます。

○議長（須藤利夫君） 塩澤重男君。

○5番（塩澤重男君） 以上で私の質問は終わります。

○議長（須藤利夫君） これをもって、5番、塩澤重男君の一般質問を終わります。

ここで暫時休議とし、休憩いたします。

10分間休憩いたします。

(午前11時16分)

○議長（須藤利夫君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

(午前11時28分)

◇ 小林徳清君

○議長（須藤利夫君） 一般質問を続けます。

次に、6番、小林徳清君の発言を許します。

6番、小林徳清君。

[6番 小林徳清君登壇]

○6番（小林徳清君） ただいま議長の許可を得ましたので、前もって通告しておりました2点について質問させていただきます。

まず、1点目であります、学校給食費補助についてであります。

人口減少対策として、誕生祝い金、移住、定住などもろもろの施策が巧を奏し緩やかな減少となっているが、自然減が多く、第6次振興計画の目標達成はこれまでの減少の推移からして困難をきわめるものと推察します。振興計画重点施策第3、「『子育てするなら玉川村で』と言われるよう、結婚・出産・子育てしやすい環境づくりを推進」との文言があります。

子育ては精神的かつ経済的に多くの費用が発生しますので、思いやりの村政の一環として保護者が負っている学校給食費の負担軽減を図るべき補助の必要があると思うが、その見解を伺います。

2点目についてであります。須釜中学校跡地についてであります。

児童、生徒の減少から統合は避けて通れない喫緊の課題であります。32年度統合に向けて準備が着々と進行していますが、廃校後の跡地と校舎をどうするのか、村民の多くが関心を寄せています。統合準備と並行して、利活用検討委員会を設置し検討中だと思いますが、どのような利活用の方向性を考えているのか伺います。

以上であります。

○議長（須藤利夫君） ただいま一般質問のとおりです。

当局の答弁を求めます。

村長、石森春男君。

〔村長 石森春男君登壇〕

○村長（石森春男君） 6番、小林議員のご質問にお答えいたします。

学校給食費補助についてのお尋ねであります。第6次玉川村振興計画の基本計画では、人口減少対策を重点プロジェクトとして位置づけており、4つある重点施策の1つが子育て世代応援プロジェクトであります。このプロジェクトは大きく2つの施策で進めており、1つは結婚・出産・子育ての支援、2つ目は学校教育環境の整備・充実であります。

1つ目の結婚・出産・子育ての支援では、出会いの場づくりと安心して出産し子育てできる環境づくりを掲げており、これまで子育て世代包括支援センターの設置や、たまかわっ子誕生祝い金、たまかわっ子子育て支援給付金、こども医療費助成金、保育料の軽減、奨学資金の貸与など、さまざまな施策を実施しているところであります。

学校給食費の負担軽減を図るべき、補助の必要があると思うがとのご質問でございますが、本村では、先ほど申し上げました振興計画の重点施策に基づき、多岐にわたる子育て応援施策を展開し、子育て世代の負担軽減を実施しており、現在のところ、学校給食費の軽減等を図るという考えには至っておりませんので、ご理解を賜りたいと思います。

次に、須釜中学校跡地についてのお尋ねであります。昨年9月4日、役場職員による第1回目の須釜中学校有効利活用庁内検討委員会を開催し、その後、10月と11月に委員会にて検討を重ね、12月27日付で須釜中学校廃校後の庁内検討委員会における利活用方針を策定いたしました。

基本的には、民間への売却、公営による貸借、指定管理者制度等による民間管理運営、そして公設公営による利用という4つの方向性を考えております。

具体的に申し上げますと、1つ目の民間への売却につきましては、村内立地企業や玉川大学など村とかかわりがある企業等との交渉や一般公募を行うこと、2つ目の公営による貸借につきましては、村で所有したまま民間に貸し出すこと、3つ目の指定管理者制度等による民間管理運営につきましては、民間みずからが活用主体となることを前提とした提案を広く募集すること、4つ目の公設公営につきましては、これまで述べた3つの方法により適切な活用方法が見出せない場合には村が管理することとしております。

今後につきましては、まずは村内立地企業や連携協定を締結した大学等に廃校後の利用について相談をしながら進めていくとともに、民間資金の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律、いわゆるPFI法にのっとり、村内外を問わずあらゆる業種の企業や団体等に声かけをして提案をいただくサウンディング型市場調査などを行い、民間での活用を促すことにより、ニーズに合致した長期的な利活用の方法を検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。

以上でございます。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） では早速、再質問に入らせていただきます。

1番のことでありますが、無償化は考えていないというふうなことでありますが、この無償化を実施している県の現状、それと石川郡管内の町村の現状はどうなっているのか、ちょっとお知らせください。

○議長（須藤利夫君） 教育長、鈴木文雄君。

○教育長（鈴木文雄君） ただいまの管内の現状、それから県内の現状についてということでご質問がございましたので、お答えさせていただきたいと思います。

管内の現状におきましては、議会等が終了すると若干変わるかと思いますが、1月現在で調べましたところによりますと、2分の1負担という町村あるいは今後2分の1を負担するという町村が多く見られます。また、新聞報道等でもお知らせされたかと思いますが、古殿町はこの議会のときに無料化をするというふうな話を聞いております。

さらに、県内の動向につきましては、59市町村のうちに、現在のところ29市町村では全額または一部補助が行われているというのを確認しておりますが、その後どういうふうになっているかというのは、まだ実際、詳細はつかんではおりません。半数程度が一部補助あるい

は全額補助等ということで進められているかと思えます。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） 今、私は石川郡管内の市町村の補助の実態を聞いているんですよ。

○議長（須藤利夫君） 石川管内は答弁している……。

小林徳清君。

○6番（小林徳清君） それでは、私も一応資料をいただいていますので、それに基づいて申し上げます。

これ、石川町は2分の1やっていますね。平田村3分の1ですよ。浅川町2分の1、古殿町は今まで10分の1ですね。きのう、おとといの新聞を見ましたら、古殿町は全額無償化になるそうであります。この中に玉川が入っていないんですよ。どう思いますか。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいま、6番、小林議員のお調べのとおりでございますけれども、古殿町さんは平成31年度からというような部分で新聞等の報道がされて現在、議会開会中でありまして、あと石川町さん、浅川町さん、平田村さんについても、私ども町村会の中でも話をしておりますので、そこは十分把握しております。

そういう把握状況を捉えながら、玉川村としては現時点においてはというのは先ほどの答弁でございます。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） この無償化は去年12月かな、広野町が全額無償にしますというふうなことから、当然もう当村もそういうような方向に進まなくてはいけないのかなと思ったものですから、この質問に至ったわけですが、そのほかに福島県には無償化されているところはあるんですよ、三島町でしたか、三島町が全額補助でありますよね。全額補助をされているのはそのほかにもあります。相馬市、金山町、下郷町、大熊、双葉とか浪江とか、ここに11市町村ほどありますが、石川管内でもほとんどの町村がやっているのに玉川だけがないんですよ。

先ほど答弁でありましたように、すばらしい施策はやっているんです。さっき村長からありましたのは、こういうようなチラシにも5つほどの、出産から就学まで子育て全力で応援するというふうなことで載っていますが、息の長い、要は小学1年から中学3年までの息の長い学校給食の補助というのは、非常に息が長いので、子育てにかかる負担が大分軽減されると思うので、私はぜひ、そういうような答弁じゃなくて、そうじゃなくて多少なりとも前

向きな答弁を希望していたわけですが、先ほどないと言いましたが、今現在時点ではなんでしょうか、それとも今後の考慮の余地はあるのかお伺いします。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいま小林議員からのお尋ねでございますが、全然その考慮の余地がないというような考えはございません。とりあえず周りの状況を見たり、あるいは村の財政状況なり、あるいは他の地方自治体の財政状況を見て、施設がどういう位置にあって、どういう方法でもって給食が無料化がされているのか、十分調査検討したいとそう考えております。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） また過去に戻りますが、30年6月19日、これは村政懇談会で、たしか四辻河平地区の村政懇談会において出たことでもあります。村長は答弁でもってこのように言われているんです、検討は行っていますと、管内でも半額補助を行っている町村もあるので引き続き検討していくと希望的観測を述べられているんですよ。言っていますよね。先ほどの答弁は絶望的で、絶望的な答弁ではありませんか。村政トップの発言は非常に、この村政懇談会といえども僕は重いと思うのです。恣意的な発言ではなかったのでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） ただいま、昨年行いました村民懇談会の内容等についてのお話がありました。そのときの回答については私も覚えてはいますけれども、今回の回答の内容等につきましても、現時点において、現在のところというようなご発言をさせていただきました。今、発言したように、この給食費の無償化はどうかかわからないですけれども、支援等については引き続き検討していきたい、そういうふうに考えていますのでご理解いただきたいと思います。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） 今の答弁は決してやらないわけじゃないと前向きに捉えてもよろしいんですね、前向きに検討するというこで。はい、オーケーです。

それでは、村長は現在3期目であります。4期目に向かってこれから立候補されると思いますが、この村長の4期目の立候補に当たって、実現性の高い公約として挙げることはできませんか。

○議長（須藤利夫君） 小林議員に申し上げます。

通告している質問についてのみ質問をお願いします。

○6番（小林徳清君） わかりました。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） こういう実現性の高い方法としては、議会で議論すること、それからPTAの要望とか、それからまた村長の公約、もう一つありますね、4つほどの実現性の高いことがあるんだそうであります。

それと、2番にまいります。

この廃校後の校舎、校庭の利用方法であります、これも村政懇談会において一番多くありましたね、一番多かったのはこのことであります、廃校後のことをどうするんですかと。それは確かに、そのときの村長の答弁では利用検討委員会のほうで検討しますよと、確かに7月とか8月とか、先ほどの答弁では12月25日あたりに庁内の庁議でもって利活用検討委員会で検討しましたと、それには4つの方向性が出されたというふうなことであります、その方向性は民間への売却でありますね、それから公営による賃貸ですか、要するに村が貸すというふうなこと、それから指定管理者制度による民間管理運営、それから公設公営による利用とその4つの方向性が出されました。それは非常に手抜きなく万全の方策をとっていくことだと私は思いますが、村政懇談会で出ました意見、覚えていますでしょうか。こういうふうな利用をしたらいんじゃないですかと言われたことを覚えていますでしょうか。

○村長（石森春男君） 場所によって違う……。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） これはですね、介護施設としていかがでしょうと、それから玉川大学の学校の連携をやっていますでしょう、そういうような玉川大学に利用させてはいかがでしょうかというふうな意見が出ました。そのほかにも、これも出ています、30年3月1日に一般質問で小針議員が介護施設の誘致はというふうなことで出ていました。それから、30年6月定例議会の議会だよりで、村民の声というふうな中で、村政に対する意見というようなことで、やっぱり玉川大学に利用の検討を促してはいかがでしょうかという意見が出ていました。

こういうようなことはどう思いますでしょうか。

○議長（須藤利夫君） 村長、石森春男君。

○村長（石森春男君） 小林議員のお尋ねの件でございますけれども、須釜中学校跡地についてたしか村民懇談会の中で出ました。大きくは中学校の統合についてをメインとしながらや

って、じゃその後はどうするんだということで意見をいただきました。確かにあったように、玉川大学と連携をしているのでその大学の云々という話、あと高齢者の介護施設云々という話、あとは公的な機関をそこにとりというそういう話もありました。そういう部分も含めまして、庁内の職員の検討委員会の中で検討させていただいて、先ほど答弁させていただきました4つの案等についていただいたというような、先ほど答弁をさせていただきまして、今後それらの実施なり、あとはまだ1年間は生徒がいっぱいいますので、今からいやこうだというふうにはいかないと思いますので、事前にそういう意見をいただいた中で村としていろんな活動をしていこうというような部分で、先ほど答弁をさせていただいた意見になったというような経緯でございますので、よろしくお願いします。

○議長（須藤利夫君） 小林徳清君。

○6番（小林徳清君） 時間も押し迫ってまいりましたので、このことを一言申し上げて私の質問は終わらせていただきますが、この須釜中学校はまだまだ活用できる立派な校舎ですので、4つの方向性に沿って、地域の振興に役立つ利用を英知を絞って考えていくよう切に願って、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（須藤利夫君） これをもって、6番、小林徳清君の一般質問を終わります。

日程第1、一般質問はこれをもって終了いたします。

◎散会の宣告

○議長（須藤利夫君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

（午前11時50分）